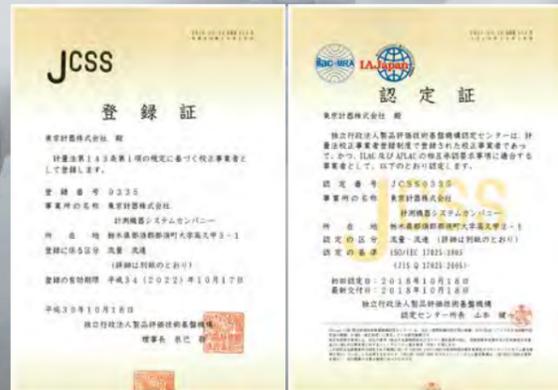


東京計器の実流量校正設備について  
 当社の実流量校正設備は2016年に完成した最新の設備です。安定した流速分布を得るための高さ25mの高架水槽を有し、口径50mmから600mmまでを取り揃えた10本のパイプライン、そして国内唯一となる矩形、円形の開水路実流量試験ラインを備えた国内最大級の規模を持っています。



日常生活の中で長さや重さ、距離、温度など何気なく使っている単位には厳格な定義があります。特に産業用の計量・計測器は正しい計測数値が表示されているかどうかを定期的に検査して誤差を修正する校正が不可欠です。一般に校正作業は、計測機器の誤差や精度を、基準となる標準器と比べて正すことで行われますが、この標準器には非常に高い精度が求められます。

JCSS(Japan Calibration Service System: 計量法校正事業者登録制度)は、ISO 17025 に準拠した国家標準器とのトレーサビリティ<sup>\*</sup>のある校正を行うための制度で、「標準器」に求められる厳しい審査をクリアした事業者だけがJCSSの校正機関として認められます。東京計器は2018年10月18日に独立行政法人 製品評価技術基盤機構(NITE)によりJCSS校正事業者として認定・登録されました。また、国際MRA対応事業者としても認定を取得しましたので、当社の実流量校正設備で校正を受けた流量計には、JCSSだけでなく国際的に通用するILAC MRA<sup>\*</sup>の標章が付いた校正証明書を発行できます。

東京計器では、JCSSに基づいた厳格な校正を自社製品に役立てるだけでなく、お客様が現在ご使用されている流量計の校正サービスもお受けいたします。国家計量標準とトレーサブルな流量校正サービスのご提供を通じて、お客様の高いご要望にお応えできるよう取り組んでまいります。

<sup>\*</sup>トレーサビリティ: 計測機器の、標準器に対する精度を確認するための仕組みのこと  
<sup>\*</sup>ILAC(International Laboratory Accreditation Cooperation): 国際試験所認定協力機構  
<sup>\*</sup>MRA(Mutual Recognition Arrangement): 多国間の相互承認のこと